

「人と地域をむすぶ快適で円滑な公共交通ネットワークづくり」をめざして  
【明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会】

事業年度：  
21～23

「人と地域をむすぶ快適で円滑な公共交通ネットワークづくり」を基本目標とし、地域住民や観光客にとって便利で快適な移動手段を確保するため、明知鉄道を中心としたシームレスな公共交通ネットワークの構築を目指すものとする。

■ 基本方針 ～「明知鉄道」と「4つの連携」の強化

- ① 明知鉄道の基幹路線としての安全性の確保と機能強化
- ② 基幹路線である明知鉄道とその支線となる交通機関との連携強化
- ③ マイバス・マイルール意識の醸成による公共交通と地域住民との連携強化
- ④ 公共交通とまちづくり・観光振興の取り組みと連携強化
- ⑤ 地域公共交通運営組織間の連携強化。

事業の概要(21年度)

① 公共交通フェスティバル&バスの日記念イベント 390千円

- トークセッション ○各種イベント
- 公共交通PR・情報提供



② 公共交通マップ等の作成 1,492千円

- 公共交通マップ
- 時刻表・運賃表
- 乗り継ぎマップ
- 駅別乗換えマップ



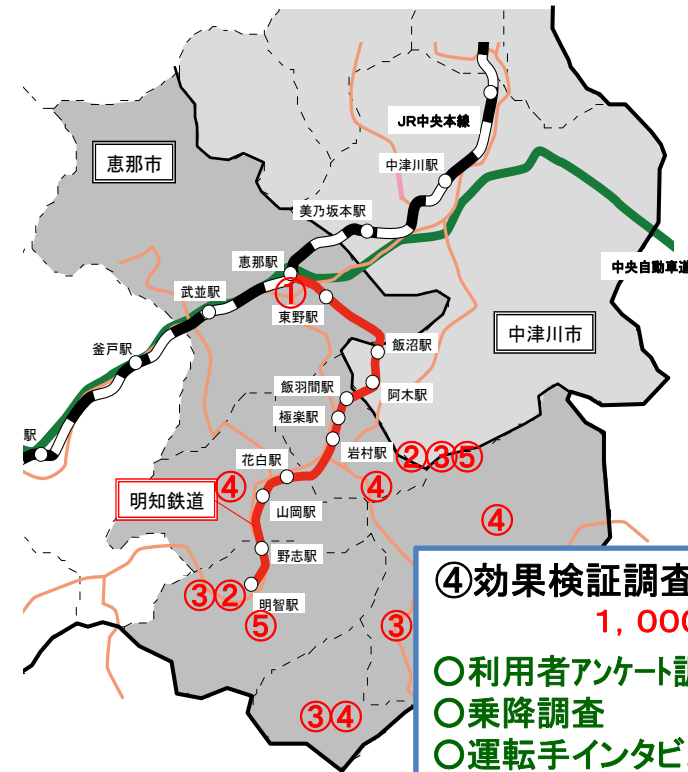
③ 鉄道との乗り継ぎを考慮したバス路線の再編 19,329千円

明知鉄道を基幹路線・バス路線をその支線とした連携強化



⑤ その他(DMV実証実験)

※総合事業外で実施  
協議会内に専門部会を設置し3月の3日間実証実験を実施



## 21年度 導入への プロセス

- 公共交通の現状を把握するため、各地域へ行き、バス、鉄道の利用者アンケート調査や乗降調査、運転手に対するヒアリングを実施するとともに、交通事業者との情報交換を行った。
- 市内の公共交通の現状について、市民に関心を持ってもらうため、21年度の議会だより(年4回発行)で明知鉄道の極楽駅、東野駅、花白駅を紹介するとともに、広報「えな」で公共交通特集を組み、「地域の足を守り・つくり・育てる」をテーマに、今ある現状、地域住民の声・地域独自で取り組んでいる交通対策を紹介し、広く啓発を行った。
- 市内バス路線の再編に併せ、明知鉄道沿線公共交通マップ、時刻表・運賃表を作成し市民に配布するとともに、くしはら温泉として有名な「ささゆりの湯」や岩村・明知駅周辺の観光案内、乗り継ぎマップを作成し、利用者利便の向上と新規利用者の開拓に努めた。

明知鉄道とバス路線を中心とした公共交通ネットワーク全体を維持、発展させるため、公共交通の実態や担っている役割、その活用方法を積極的に情報発信し、公共交通に対する市民の理解を深めるため「公共交通フェスティバル」と「バスの日」を同時開催した。

### 潜在需要の掘り起こし・観光利用の促進

本年度事業において作成した公共交通マップ及び時刻表については、合併後の恵那市全域のバス路線を掲載し、市民に配布するとともに、市の広報で公共交通の特集記事を掲載し啓発を行った結果、明知鉄道やバスに対して多くの市民の皆様に関心を持っていただくことができた。また、明知鉄道とバスを乗り継ぎ、「ささゆりの湯」へ行くための「乗り継ぎマップ」を作成し、市内各施設や旅行会社、鉄道全駅に設置、恵那市のHPにも掲載するなど、市内外からの新規利用者の開拓を試みたが、一時的に同施設の使用が停止されたこともあり、利用増には繋がらなかったが、利用者からは、ローカル列車のスローな時間と山里の素朴感が表現されており、親しみやすく、とても分かりやすいとの意見をいただいた。

### バスとの連携によるアクセス改善・利用促進

鉄道との乗り継ぎを考慮したバス路線の再編では、恵那駅直通便を岩村止まりとすることに対し、地域住民から強い拒否反応があった。しかし、直通便を廃止するかわりに、岩村駅での乗り継ぎ利便性の向上や運行時間の延長、運賃の改定など総合的な利便性の向上を図った結果、明知鉄道岩村駅で対前年比20%以上の増収となったほか、バス利用者数も同駅乗降が1.7倍に増加。市町村合併直後から懸案であった岩村から恵那駅までの明知鉄道との競合が解消された。

### 地域イベントとの連携による利用促進

9月5日に開催した公共交通フェスティバル&「バスの日」記念イベントは、同時開催により規模が大きくなり、関係機関との調整など苦労したものの、集客力が高まり、市の全域から親子やお孫さんを連れのお年寄りの方など、普段は公共交通機関を利用しない人たちも含め、約1,000人の方に参加いただき、公共交通について関心を持っていただくことができた。

基幹路線である明知鉄道とその支線となるバス路線の連携を強化し、乗り継ぎ利便性や活用方法など地域に浸透させ、鉄道・バスの一体的な利用促進を図る。

- 上記事業を取り組んだ結果、各バス路線が地域の実情に合っていないこと、住民が公共交通の実態を把握していないこと、関心がないことなど、課題や地域の現状が明確となった。また、バス路線の再編や現状を広く周知した結果、利用している方、また利用したいという方から、バスの運転手や市役所への意見・要望が多く寄せられるようになった。
- 住民参加型の沿線環境整備や車両整備、駅名・線名の愛称募集、キャラやロゴなどの作成を通じて、地域におけるマイバス・マイルール意識の醸成を図る。
- 明知鉄道の各駅に、バスへの乗り継ぎ案内や周辺施設の案内看板を設置し、利便性の向上と利用促進を図る。
- 明知鉄道沿線の企業へ利用の働きかけを行い、通勤利用の促進を図る。
- 旬の味覚を明知鉄道の車内で楽しむグルメ列車や沿線ウォーキングをはじめ、鉄道を利用したイベントを多数企画するとともに、観光マップの情報量を増やし、お得情報を盛り込むなど、当地を訪れたいくなるようなマップを作成することで観光客の利用促進を図る。

## 21年度 事業の 効果

## 次年度 以降